

農経新聞

株式会社 農経新聞社
 東京都品川区西五反田
 1-27-6 市原ビル9F
 (郵便番号 141-0031)
 電話 東京 (03)3491-0360
 F A X (03)3491-0526
 ホームページ
<http://www.nokei.jp>
 郵便振替 00180-8-156982

実需者と種苗メーカー結べ

関東農政局 加工・業務用テーマに情報交換
 青果育種研

関東農政局と青果育種研究会(会長 宮本修・東京青果専務)は、埼玉県で「関東地域における加工・業務用野菜に関する情報交換会」を開催し、流通業者や生産者など170人が参加した。農水省、産地、外食の関係者がそれぞれ講演し、種苗メーカー14社が推奨品種を紹介。加工・業務

用では、輸入農産物への対抗として周年の安定供給が望まれる。こうした中、低温期や品薄時期の安定栽培・供給に向けた品種や耐病性に優れた品種、さらには差別化品種など約50品種が一堂に会した。関東農政局では、実需者と種苗メーカーとのマッチングイベントの実施は今回が初めてと

なる。

低温伸長性に優れた品種として、武蔵野種苗園(東京都豊島区)はニラ「ハイパークリーンベルト」を紹介。秋・春の低温期のニラは葉肉が薄く色が淡くなりがちだが、同品種は葉肉が厚く緑色が濃くなるうえ、分けつが少ないため太いニラとなる。カネコ種苗(前

橋市)のレタス「トリガー」

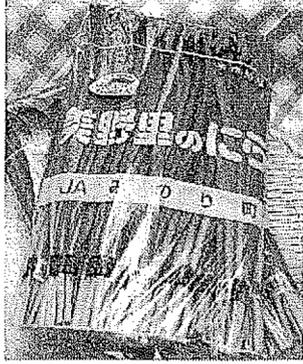
も低温伸長性に優れた品種で、厳冬期でもしくしく中心の収穫が期待できる。凍害に強く、数回の降霜にも耐えられるという。一方、タキイ種苗(京都市下京区)では、関東地域で品薄時の4月に供給できる寒玉キャベツ品種として中晩生の「彩音(あやね)」、晩生の「夢(ゆめ)」に加え、トマト黄化葉巻病のイスラエル系・マイルド系に耐病性を持つトマト2品種を紹介した。

このほか、とぎわい農場(埼玉県吉見町)では皮が淡緑色の「うぐいすキュウリ」、イボなしのミニキュウリ「ブチット」を出展。八

江農芸(長崎県諫早市)では、葉や柄がやわらかく、鍋物や炒め物などさまざまな調理法に向く葉ニンニク



(上) 奥が薄緑色の「うぐいすキュウリ」、手前がミニのイボなしキュウリ「ブチット」(左)低温伸長性があり、味・香りも良いニラ「ハイパークリーンベルト」



を紹介し注目を集めた。また、サカタのタネ(横浜市都筑区)では、ミニハクサイ「ダイニッシュユ」を夏場のサラ野菜として

の活用を提案した。セミナーでは、牛めし定食チェーン「松屋」などを展開する松屋フーズ(東京都武蔵野市)商品部農産開発室長の遠山知秀氏が野菜調達・加工・消費者への提供までの取組み

について紹介。同社で扱う野菜は2005年に開設した「富士



170人が参加し、賑わいを見せた情報交換会。手前のカネコ種苗のブースではレタス「トリガー」をはじめ、ミニトマト「イエローミニ」、ダイコン「YR案ざくら」などを紹介

と評価。一方、毎年5%のペースで店舗数が増加する中、毎年5%多く調達しなくてはならない。安定調達のため新たな取引先を増やしていきたい。(担い手不足などが問題となる中)これからは産地の強化育成に努めないと話した。